

平成	2001年 4月	附属図書館研究開発室設置
	2006年 2月	名古屋大学学術機関リポジトリNAGOYA Repository公開
	2009年12月	中央図書館にラーニング・commons設置
	2010年 7月	理学部の全学科図書室を統合し理学図書室開室
	2010年 5月	中央図書館にスターバックスコーヒー開店
	2011年 6月	工学部中央図書室が一部学科図書室を統合しES総合室に移転開室
	2013年 10月～	中央図書館耐震改修工事



現在の中央図書館

## 大学図書館としての機能強化 ～新しい中央図書館～

2013年(平成25年)9月から、中央図書館を全面的に改修します。全館的に耐震補強を施して、地震に強い、より安心、安全にご利用いただける図書館になります。そして、中央図書館の持つ、学習機能、研究機能をより強化して、これまで以上に快適で使いやすい図書館へと生まれ変わります。

まず第一に、アクティブからサイレントへのゾーニングを明確にします。ラーニング・commonsのある2階から研究活動を支援する4階へと、ゾーニングコンセプトに合わせてフロアをデザインしなおします。

第二に、不足していたグループ学習スペースを2階と3階に拡充します。2階ラーニング・commons内のディスカバリースクエアを広げ、3階には、あらたにグループ学習ゾーンを設けます。主体的な学習を支援する図書館としての機能を強化します。

第三に、研究機能を強化します。4階は、静謐な空間として、個室を中心とした研究ゾーンとなります。貴重書室も4階に移動し、より資料の保存に適した書庫を設け、研究スペースも併設した貴重書室となります。

さらに、2階の入館ゲートに入る前に展示やイベントができるスペースを新設して、今までよりもっと身近な図書館として、本学の貴重書や珍しい図書を楽しんでいただけるようになります。また、様々なイベントも開催します。

これらの改修工事のためには、休館を余儀なくされます。改修工事の予定はホームページや掲示等で随時公表していきますので、新しい図書館の実現に向けて、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## NEWS & TOPICS

Nagoya University Library



### Web of Knowledge 活用セミナー ～文献検索から研究評価まで。図書館に期待される役割～ を開催しました

7月3日(水)、名古屋大学附属図書館とトムソン・ロイター社との共催で「Web of Knowledge 活用セミナー～文献検索から研究評価まで。図書館に期待される役割～」を開催し、学内外から教員、図書館員など約30名の参加がありました。

まず、トムソン・ロイター本社のシニアディレクターから、図書館員の役割とWeb of Knowledgeについて講演があった後、中京大学の教員と愛知医科大学の図書館職員から、それぞれの立場でWeb of Knowledgeの活用法について発表がありました。名古屋大学からは、図書館による人文社会科学分野の研究成果発信支援(学内で刊行する紀要をWeb of Knowledge収録候補誌とするための調査等)について発表がありました。教員と図書館員それぞれの立場でWeb of Knowledgeへの理解を深め、今後の研究支援のあり方を考える有意義なイベントとなりました。

### 生命農学図書室が休室します(耐震工事:8月-10月)

農学部管理棟の耐震改修工事のため、生命農学図書室は休室します。  
【休室予定】2013年8月1日(木)～10月31日(木)

なお、臨時図書室を開設予定(農学部第6講義室:8/5～10/16)ですが、利用できるサービス/資料は限られます。また、工事の進捗等により予定が変更されることもありますので、ご入室前に必ず図書室Webサイトをご確認ください。

<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~library/indexj.html>  
ご不便をお掛けいたしますが、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 中央図書館の改修工事に伴う閉館について

中央図書館は、耐震改修工事のため閉館します。  
【閉館期間】2014年1月5日(日)～4月6日(日)(予定)

上記閉館期間以外にも、9月以降、部分的に利用できないエリアや資料が発生します。そのため、特例として工事期間中の長期貸出を行います。閉館期間中のサービスの詳細については、順次図書館ホームページや掲示等でお知らせしますのでご確認ください。

ご不便をお掛けいたしますが、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 図書館タイムライン～進化する名古屋大学附属図書館の姿～

過去から受け継がれてきた知的資産の蓄積をもとに、名古屋大学附属図書館は、時代とともに新しい機能を追加しながら進化してきました。そして、2014年4月、図書館はさらなる進化を遂げ生まれ変わります。附属図書館のこれまでの歴史を振り返り、ご紹介しましょう。

# 名大と附属図書館の歴史

年代	出来事	
明治	1871年 8月	名古屋県が名古屋藩評定所跡に仮病院を、町方役所跡に仮医学校を設置
	1873年11月	医学講習場設置
	1876年 6月	公立医学所と改称
	1901年 8月	愛知医学校を愛知県立医学校に改称
	1903年 7月	愛知県立医学校が愛知県立医学専門学校となる
	1908年 4月	官立第八高等学校設置
大正	1914年 3月	愛知県立医学専門学校、鶴舞に新築移転
	1920年 7月	愛知県立医学専門学校が県立愛知医科大学に昇格
	1920年 11月	官立名古屋高等商業学校設置
昭和	1931年 5月	官立名古屋医科大学設置(県立愛知医科大学を官立移管)
	1932年 3月	名古屋医科大学に附属図書館設置
	1939年 4月	名古屋帝国大学(医・理工2学部)創設
	1942年 4月	医学部構内(昭和区鶴舞町)に附属図書館開設、各学部に図書分室設置 理工学部が工学部と理学部に分離、両学部に図書分室設置、東山キャンパスへ移転
	1944年 3月	名古屋高等商業学校が名古屋工業経営専門学校と名古屋経済専門学校となる
	1945年 3月~5月	空襲により図書館資料の一部焼失
	1945年 4月	岡崎高等師範学校設置
	1946年 3月	環境医学研究所附置に伴い図書室設置
	1947年10月	名古屋大学附属図書館に改称
	1948年 9月	文学部及び法経学部設置に伴い両学部に図書分室設置
	1948年10月	附属図書館が昭和区鶴舞町から中区南外堀町(名城地区)へ移転
	1949年 5月	新制名古屋大学設置
	1950年 4月	法経学部の分離に伴い法学部図書室、経済学部に図書分室設置
	1952年 4月	瑞穂分校及び豊川分校統合による教養部(瑞穂区瑞穂町)設置に伴い図書分室設置
	1952年 9月	農学部設置(安城市新田町)に伴い図書分室設置
	1960年 8月	文・理の2学部を除く各学部に図書掛設置
	1961年 4月	プラズマ研究所附置に伴い図書掛設置
1964年12月	東山キャンパスに古川図書館(中央図書館)開館	
1966年 4月	農学部(図書室)東山地区へ移転	
1970年10月	附属図書館報「館燈」創刊	
1973年 3月	鶴舞キャンパスに医学部分館設置	
1981年 9月	新中央図書館開館	
1989年 5月	プラズマ研究所(図書室)廃止	
1994年10月	中央図書館増築工事竣工	
平成	2000年12月	中央図書館に展示室開設

## 図書館がお城にあったころ

本学は、1871年(明治4年)に開かれた名古屋県仮病院・仮医学校にその基礎を辿り、その後様々な姿を経て、名古屋帝国大学となります。現存する学部がすべて揃うのは多くの前身校を加え、1949年(昭和24年)に誕生した新制名古屋大学からでした。その中で、附属図書館が登場するのは、1932年(昭和7年)名古屋医科大学時代のことです。当時は、現在の鶴舞キャンパスに事務室を置いていました。その後、1948年(昭和23年)に名古屋城内の旧兵舎へ移転を行い、そこで初めて「附属図書館」としての建物を手に入れました。

名古屋城内に図書館があったこの時期に、附属図書館は高木家文書を受け入れました。高木家文書には約10万点もの資料があり、木曾三川流域で江戸時代に行われた治水関連の史料を大量に含んでいます。もともとは西高木家(岐阜県美濃)が持っていましたが、戦後に売却されることになりました。このとき市場で散逸する危険があったため、名古屋大学が高木家文書を購入しました。高木家文書は、附属図書館のホームページからデータベース(エココレクション)でも見ることができます。



名古屋医科大学時代の図書館(昭和14年頃)



名古屋城にあった新制名古屋大学の附属図書館

## 古川図書館時代

帝国大学時代からの宿願であった中央図書館(本館)の建設は、キャンパスの東山地区への移転後、日本ヘラルド映画株式会社会長の古川為三郎、志ま夫妻の寄付によって実現しました。設計は東宮御所や藤村記念堂などを設計し、明治村の初代館長も務めた東京工業大学教授(当時)谷口吉郎氏です。

1964年(昭和39年)12月14日に開館した新図書館は、寄付者の古川夫妻にちなんで古川図書館と命名されました。従来の大学図書館が書籍の保存と閲覧を主な目的としていたのに対して、この鉄筋コンクリート三階建ての建物では、新しい図書館機能の要求に応じ、文献複写サービスと総合研究の便宜を図るため、館内に複写施設と共同研究室などを充実させました。2階に閲覧室と開架図書、3階に共同研究室、研究個室、マイクロリーダ室、演習室、視聴覚室等が設けられ、1階は管理部門として事務室や文献複写サービスのための設備のほか、館長室、応接室、喫茶室などがあり、喫茶室からは明るい窓を通して名古屋街が見渡せました。

1956年(昭和31年)2月に成案化された「名古屋大学附属図書館のあり方」が東山地区移転直前の1963年(昭和38年)10月に再確認され、このとき使用された「よく連絡調整された分散主義」という表現が望ましい図書館機構のあり方を示すものとなりました。また、本誌「KANTO Newsletter」の前身、附属図書館報「館燈」が創刊されたのは1970年(昭和45年)10月のことです。



古川図書館(現在は名古屋大学博物館)

## 図書館の最先端を走る!

1981年(昭和56年)9月7日、現在の場所に新築移転した中央図書館は「学習・研究・総合・保存」を基本方針として開館しました。広さは現在の2/3、中央の階段から玄関までの部分です。今も旧館と新館の境の継ぎ目が床にあります。

地下鉄の改札のように利用証で入館し、無断持ち出し防止装置を通して退館する自動入退館システムは、メーカーと共同開発した最新鋭のものでした。学習用図書のコンピュータによる貸出が導入されたのもこの時期です。

窓から前庭と池が見下ろせる場所にグループ学習室を配置し、机や椅子を温かみのある木製に揃えるなど快適な学習空間を創り出しました。学術雑誌のバックナンバーをジャンルごとに1階と4階に収め、これまでに購入した和洋の古典籍やコレクション類は貴重書室を設けて整備を進めてきました。

また憩いの場として、一般雑誌や美術書中心のブラウジングルームや2階から4階の自販機付き喫煙可のラウンジ、教員向けの談話室ファカルティ・ラウンジもありました。

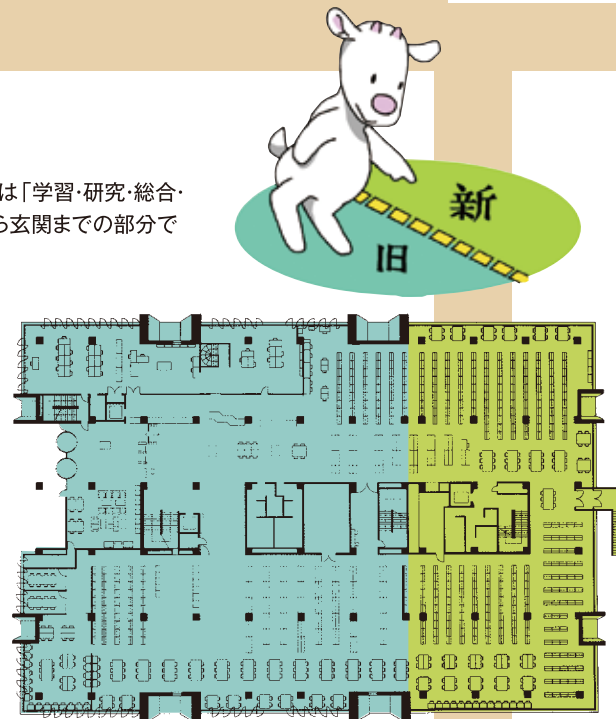
1992年(平成4年)には週休2日制が導入されたにも関わらず土曜開館を続け、翌年には日曜・祝日開館も始まりました。



自動入退館システム(開館当時)



「中央図書館利用案内」1982年度版



こんなルールがあった!  
1982年の「中央図書館利用案内」には下駄ばきでの入館や、建物及び館内での貼紙やピラ配布と禁止と書かれてたんだ☆

## 資料のサービスから情報・空間のサービスへ

1994年(平成6年)に、中央図書館の増築が完成しました。総床面積は10,000㎡から15,300㎡となり、座席数は764席から1,002席へ、研究個室は6室から17室へ増設されました。雑誌のバックナンバーを集約することで利用の効率化と共同保存の促進を図りました。また、マルチメディア化に対応すべくAVサービスを強化し、1999年(平成11年)には海外衛星放送受信システムを導入して「世界の窓」コーナーとしてオープンしました。2000年(平成12年)からは電子ジャーナルの本格提供サービスを開始しています。

2009年(平成21年)12月には、2年計画で整備されてきたラーニング・コモンズが全面オープンしました。これまで「静謐な空間」であった図書館ですが、中央図書館の2階フロア全体を学習のための「会話のできる空間」としたのです。ここでは、PCや印刷資料を使って個人学習・少人数での共同作業からゼミ・授業まで多様な学習活動ができるよう、さまざまな座席や設備、サポートメニューが用意されています。また2010年(平成22年)5月には図書館エントランスにスターバックスコーヒーが開店し、利用者の交流と憩いの場となっています。

また、学内各建物の耐震改修が順次行われ、各部局の図書室も一時閉室・移転などがありました。主なところでは2010年(平成21年)7月に理学図書室が、2011年(平成22年)6月に工学図書室がそれぞれ改修・統合を経てリニューアルオープンしています。



ラーニング・コモンズ